

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業区分 重点

事業名	留守家庭子ども会事業		
所管課	教育委員会総務部放課後こども育成課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	昭和41年度		かぎっ子対策として教育委員会において昭和41年度に事業開始。現在は児童福祉法に基づき、対象児童に適切な遊びと生活の場を提供するための放課後児童健全育成事業として市内139小学校の敷地内で実施しており、仕事と子育ての両立支援にも寄与している。
根拠法令	児童福祉法、福岡市留守家庭こども会事業の実施に関する条例		
行政計画	第5次福岡市子ども総合計画		

基本計画			
施策コード	主	1-7-3	施策成果指標 子育て環境満足度 (R6年度目標:75%)
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり		
事業群	地域における子育ての支援		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 保護者が労働等のために昼間家庭にいない小学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ○入会要件を満たす希望児童を、学校敷地内の安全な環境下で受け入れる。 ○児童の自主性、社会性及び創造性の向上と基本的な生活習慣の確立を図る。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○留守家庭子ども会の運営にあたっては、市から総括支援員等を配置するとともに、保護者や校区関係者、学校関係者で構成される校区ごとの運営委員会に委託し、地域住民も補助支援員として運営に協力するなど、地域ぐるみで子どもを見守る体制となっている。 ○利用児童数の増加等に対応するため、支援員等を増員した。また、狭あい化が見込まれる7校について、専用施設の整備を行った。 ○新型コロナウイルス感染症の影響による休校に伴い4~5月は終日開設し、また、1年間を通して感染防止対策を講じて運営を行った。 ○会計年度任用職員制度移行に伴い、各留守家庭子ども会の運営面での充実強化を図ることを目的として、子ども会の運営全体のマネジメントを行う現場責任者として総括支援員を配置した。
----------	--

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計		3,769,894
歳入	特定財源	3,068,369
	一般財源	701,525
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R1
	R3	
歳出合計	3,116,628	4,082,438
歳入	特定財源	2,394,027
	一般財源	722,601
	R3	1,676,702

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	・利用児童数の増加に対応するため、施設整備等(余裕教室の活用、専用施設の整備等)を行う。 ・必要な人員を確保するとともに、研修等により資質の向上を図る。 ・巡回等により各留守家庭子ども会の運営状況を確認するとともに、必要な指導や制度改善の検討等を行う。	・児童の支援に必要なスペースが確保される。 ・適切な人員により、より質の高い育成支援が行われる。 ・事業の趣旨を踏まえた、適切な運営が行われる。	・保護者は留守家庭子ども会に児童を預けることで、安心して労働等に専念できる。 ・児童は、家庭に変わる生活の場を得ることができ、生活習慣等が身に付く。 ・留守家庭子ども会の運営が円滑に行われ、スタッフの負担が軽減される。	・安心して子育てができる。 ・児童の健全育成が図られる。 ・保護者や地域により、子どもを見守る環境ができる。
	指標の内容	実績	目標	実績
	年度	R1年度	R2年度	R3年度
	最終年度	R年度	R年度	R年度
活動の指標	施設の整備件数	5	5	139
	目標	5	5	139
	実績	5	5	139
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%
	目標			R年度
	実績			R年度
	達成率			R年度

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	学力パワーアップ総合推進事業	
所管課	教育委員会指導部学校企画課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 本市学力実態調査(平成18～19年度継続実施)及び全国学力・学習状況調査、生活習慣・学習定着度調査で明らかになった課題を克服するため。
開始年度	平成15年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画				
施策コード	主	1-8-1		施策成果指標 学校の教育活動に対する満足度
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	「生きる力」を持った子どもの育成			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	福岡市立の小・中学生
	対象をどのような状態にしたいのか	平成16年度から実施してきた「学力づくりパワーアップ支援事業」における実施校の成果、および平成20年度から実施してきた「学力パワーアップ総合推進事業」における推進拠点校の成果を、すべての小中学校で活用し、本市児童生徒の着実な学力向上を図る。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	①すべての小中学校において、学力向上推進プランを策定し、検証改善サイクルに基づいた実効性のある学力向上の取組を実施 ②全国学力・学習状況調査の結果に基づいた、各学校の指導資料を作成し、担当指導主事の学校訪問による指導を実施 ③すべての小学校に国語・算数、すべての中学校に数学の共通教材を配備し、授業などにおいて活用 ④学校と地域の「共育」による、放課後補充学習「ふれあい学び舎事業」をすべての小学校で実施 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため②、④については未実施。
----------	-------------------------------	---

事業費(千円)			
令和2年度決算額(見込額)			
歳出合計		7,384	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	7,384	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R1	R3
歳出合計		97,690	0
歳入	特定財源	29,606	0
	一般財源	68,084	0

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																										
	すべての小中学校において、学力向上推進プランを策定し、学力向上の取組を推進する。 すべての小学校で、放課後補充学習「ふれあい学び舎事業」を実施する。 すべての小学校に国語・算数、すべての中学校に数学の共通教材を配備する。	すべての小中学校が、自校の学力の課題に応じた実効性のある取組を実施する。	「学習定着度調査」における正答率40%以上の児童生徒の割合が向上する。	すべての小中学校が、自校の学力の課題に応じた実効性のある取組を実施することで、福岡市の児童生徒の学力が向上する。																																																																										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">学力向上に係る取組状況調査 検証改善サイクルの確立(小中学校)</td> <td>目標</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td rowspan="3">100%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>92.5%</td> <td>76.5%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>92.5%</td> <td>76.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">学力向上に係る取組状況調査 補充学習の推進(小中学校)</td> <td>目標</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td rowspan="3">100%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>97.2%</td> <td>77.5%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>97.2%</td> <td>77.5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	学力向上に係る取組状況調査 検証改善サイクルの確立(小中学校)	目標	100%	100%	100%	R6年度	実績	92.5%	76.5%	100%	達成率	92.5%	76.5%		学力向上に係る取組状況調査 補充学習の推進(小中学校)	目標	100%	100%	100%	R6年度	実績	97.2%	77.5%	100%	達成率	97.2%	77.5%		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">「学習定着度調査」における正答率40%以上の児童の割合(小学校)</td> <td>目標</td> <td>90.0%</td> <td>90.0%</td> <td rowspan="3">90.0%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>77.4%</td> <td>実施なし</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>86.0%</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">「学習定着度調査」における正答率40%以上の生徒の割合(中学校)</td> <td>目標</td> <td>88.5%</td> <td>88.5%</td> <td rowspan="3">88.5%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>75.8%</td> <td>69.4%</td> <td>88.5%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>85.6%</td> <td>78.4%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	「学習定着度調査」における正答率40%以上の児童の割合(小学校)	目標	90.0%	90.0%	90.0%	R6年度	実績	77.4%	実施なし	90.0%	達成率	86.0%	-		「学習定着度調査」における正答率40%以上の生徒の割合(中学校)	目標	88.5%	88.5%	88.5%	R6年度	実績	75.8%	69.4%	88.5%	達成率	85.6%	78.4%	
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																							
		R1年度	R2年度		R3年度	最終年度																																																																								
学力向上に係る取組状況調査 検証改善サイクルの確立(小中学校)	目標	100%	100%	100%	R6年度																																																																									
	実績	92.5%	76.5%		100%																																																																									
	達成率	92.5%	76.5%																																																																											
学力向上に係る取組状況調査 補充学習の推進(小中学校)	目標	100%	100%	100%	R6年度																																																																									
	実績	97.2%	77.5%		100%																																																																									
	達成率	97.2%	77.5%																																																																											
指標の内容	年度	実績		目標																																																																										
		R1年度	R2年度	R3年度	最終年度																																																																									
「学習定着度調査」における正答率40%以上の児童の割合(小学校)	目標	90.0%	90.0%	90.0%	R6年度																																																																									
	実績	77.4%	実施なし		90.0%																																																																									
	達成率	86.0%	-																																																																											
「学習定着度調査」における正答率40%以上の生徒の割合(中学校)	目標	88.5%	88.5%	88.5%	R6年度																																																																									
	実績	75.8%	69.4%		88.5%																																																																									
	達成率	85.6%	78.4%																																																																											

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	学校生活支援事業		
所管課	教育委員会指導部 発達教育センター	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成20年度		平成19年度より「特別支援教育支援員等の配置」事業として、校内の支援体制の充実を図ってきたものであるが、特別支援学級の児童生徒だけが支援の対象であるという誤解を受ける場合があることなどから、令和元年度から「学校生活支援員」へと名称を変更し、配慮を要する児童生徒が支援をより受けやすい体制づくりを目指すこととした。
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		

基本計画				
施策コード	主	1-8-1		施策成果指標 学校の教育活動に対する満足度
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	「生きる力」を持った子どもの育成			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市立小中学校等に在籍する配慮を要する児童生徒
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 小中学校等に在籍する配慮を要する児童生徒の学校生活や学習活動上のサポートなどを行うため、学校生活支援員を配置し、校内での支援体制を充実する。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○学校生活支援員の配置希望調査を2回実施。 ○希望調査から優先度を判断し配置校を選定。 ○学校生活支援員243人を配置。 ※例年実施している学校生活支援員の研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
----------	--

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計		287,537
歳入	特定財源	86,212
	一般財源	201,325
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R1	R3
歳出合計	156,833	353,808
歳入	特定財源	41,081
	一般財源	115,752
		235,246

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童生徒に対する支援 ・支援対象となる児童生徒が所属する学級の学習活動の支援 ・当該学級で使用する教材づくり等の補助 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が学校生活を円滑に過ごすことができ、学習活動が充実する。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する児童生徒を支える学級づくりの実現 ・教育効果が高まる </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の推進 ・インクルーシブ教育の推進 </div>
	→	→	→	→
	→	→	→	→

活動の指標	指標の内容	実績				目標	
		年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	最終年度
配置人数	目標		213	243	268	R6年度	
	実績		236	243		310	
	達成率		110.8%	100.0%			
研修の開催回数 ※R2年度は中止	目標		4	4	4	R6年度	
	実績		4	実施なし		4	
	達成率		100.0%	-			

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績				目標	
		年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	最終年度
配置率 (配置校数/配置希望校数)	目標		100.0%	100.0%	100.0%	R6年度	
	実績		100.0%	100.0%		100.0%	
	達成率		100.0%	100.0%			
	目標					R 年度	
	実績						
	達成率						

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	アントレプレナーシップ教育	
所管課	教育委員会指導部学校企画課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 急激に変化する社会に柔軟に対応する力と態度を身に付けるために、既存のキャリア教育に「アントレプレナーシップ教育」を導入し、より質の高いキャリア教育をめざすことで、児童生徒のチャレンジマインドの一層の育成を図る。
開始年度	平成27年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-1	学校の教育活動に対する満足度	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	「生きる力」を持った子どもの育成		施策成果指標	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	福岡市立の小・中学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	未来の福岡を創生する子どもたちが将来に夢や希望をもち、新しいことにチャレンジする意欲を育成する。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	【小学校】 ○各界著名人による「夢の課外授業」を「二十一世紀倶楽部」と連携して8校で実施 ○ジュニア・アチーブメント(JA)の帽子の仕入れや製造、販売などの経営シミュレーションプログラムCAPSを全小学校で実施 →新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
	【中学校】 ○未来を切り拓くワークショップを中学校23校で実施 (対面実施12校、オンライン実施11校)

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計	5,478	
歳入	特定財源	0
	一般財源	5,478
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R1 R3
歳出合計	5,097	3,942
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	5,097 3,942

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	CAPS、夢の課外授業、未来を切り拓くワークショップを実施する。	意思決定力・分析力等を育成する授業が行われる。 各界著名人による講話や体験活動を取り入れた授業が行われる。 起業家の講話を通して、将来に対する生徒同士の対話的な学習が充実する。	全国学力・学習状況調査における「将来に夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合が向上する。	全ての小中学校で、学校主体によるより質の高いキャリア教育を継続的に行うことができるようになり、福岡市の児童生徒が将来に夢や希望をもち、新しいことにチャレンジする意欲を高めることができる。	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
活動の指標	起業者による講話を実施した中学校数	目標 23 実績 23 達成率 100%	69	69	R6年度
	CAPSプログラム学習を実施した小学校数	目標 141 実績 141 達成率 100%	144	144	R6年度
成果の指標(KPI)	「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童の割合	目標 89.0% 実績 83.4% 達成率 94.2%	89.0%	89.0%	R6年度
	「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合	目標 75.0% 実績 74.2% 達成率 97.0%	75.0%	75.0%	R6年度

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	小学校外国語活動支援事業	
所管課	教育委員会指導部小学校教育課	背景
開始年度	平成15年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か 小学校外国語活動の充実を図り、児童のコミュニケーション能力の素地を育てるため。		

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-2	学校の教育活動に対する満足度	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	国際教育の推進		施策成果指標	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市立の小学生3、4年生
	対象をどのような状態にしたいのか 外国の言語や文化に対する体験的な理解や、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、児童のコミュニケーション能力の素地を養う。
事業目的	

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 〇3年生に18時間、4年生に8時間GTを配置し、担任や児童とのやり取りの中で、コミュニケーション能力の素地を養う活動を展開した。

事業費(千円)			
令和2年度決算額(見込額)			
歳出合計	33,800		
歳入	特定財源	4,972	
	一般財源	28,828	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R1	R3
歳入	歳出合計	31,721	33,320
	特定財源	7,227	10,936
	一般財源	24,494	22,384

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	小学校3・4年生にGTを配置し、担任とGTによる外国語活動を行う。 中学校ブロックでの公開授業研修会を行う。	授業中の英語による実践的なコミュニケーション活動が充実する。 指導法等の共通理解が図られる(小中連携)。	子どもたちが授業中に積極的に英語を聞いたり、話したりするようになる。 教師の指導法が改善される。	小学校外国語活動において担任の指導力が向上し、効果的な外国語活動の指導を行うことにより、児童のコミュニケーション能力の素地が育つ。		
	指標の内容	実績	目標	実績		
	活動の指標	年度	R1年度	R2年度	R3年度	R6年度
公開授業研修会の実施校数	目標	144	144	144	144	R6年度
	実績	144	144			
	達成率	100.0%	100.0%			
	目標			R年度		
実績						
達成率						

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標			
	年度	R1年度	R2年度	R3年度	R6年度	最終年度
	「今よりもっと英語で自分の言いたいことを伝えたり、相手の言いたいことを理解できるようになりたい」と回答した児童の割合	目標	85.0%	90.0%	88.0%	93.0%
	実績	87.5%	86.8%			
達成率	102.9%	96.4%				
「授業中、子どもたちは積極的に英語を聞こうとしている」と回答した教師の割合	目標	80.0%	80.0%	82.0%	85.0%	
実績	77.1%	77.6%				
達成率	96.4%	97.0%				

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	ネイティブスピーカー委託事業		
所管課	教育委員会指導部中学校教育課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成23年度		英語教育の充実改善を図り、福岡市の中学生、高校生に生きた英語を学ばせる必要があったため。
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		

基本計画				
施策コード	主	1-8-2		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	国際教育の推進			学校の教育活動に対する満足度

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	福岡市立の中・高・特別支援学校の生徒
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	生徒の英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力を向上させる。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○中学校及び高等学校、特別支援学校に、ネイティブスピーカー(外国人英語指導講師)を配置
	・中学校は、全学級で1クラス当たり年35時間実施
	・高等学校、特別支援学校は、学校の要望に応じて実施。1クラス当たりの実施時間の上限は、高等学校は年35時間、特別支援学校は年10時間。
	○中学校3年生を対象に、英語チャレンジテストを実施
	○英語の発信力の向上のために、全中学校を対象としたスピーチコンテストを実施 → 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計		281,212
歳入	特定財源	0
	一般財源	281,212
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R1	R3
歳出合計	279,184	447,119
歳入	特定財源	0
	一般財源	279,184

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	中・高・特別支援学校にネイティブスピーカーを配置し、担任や英語科教員とネイティブスピーカーによる授業を行う。	授業中の英語による実践的なコミュニケーション活動が充実する。	英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力(英検3級相当以上の割合)が向上する。	グローバルな人材が育成される。		
	指標の内容	実績		目標		
	活動の指標	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
		目標	69	69	69	R6年度
		実績	69	実施なし		69
達成率		100.0%	-			
目標				R 年度		
実績						
達成率						

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	いじめ・不登校ひきこもり対策支援事業		
所管課	教育委員会指導部教育相談課 安全・安心推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成21年度		平成19年当時不登校児童生徒数は、1,100人を超えており、早急な対応が求められていた。平成20年度の「不登校ひきこもり対策支援会議」の提言をもとに、平成21年度から、新たな不登校を生まないための支援策や不登校児童生徒への支援策等を継続して実施している。
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		

基本計画				
施策コード	主	1-8-3		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実			学校の教育活動に対する満足度

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市立学校の小学4年生から中学3年生までの児童生徒・教員
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか いじめや不登校をはじめとする、子どもが抱える様々な課題やその兆候をいち早く把握し、早期対応を行う。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○教育相談コーディネーターを全中学校(小呂中、玄界中を除く)に配置。 ○児童生徒の学級集団アセスメント及びいじめや不登校の未然防止・早期発見のために、小学校4年生～中学校3年生を対象に「Q-Uアンケート」を実施。 ○全ての児童生徒が通える学校を目指し、新たな長期欠席児童生徒を生まないための効果的な取組や、登校支援が必要な児童生徒への支援の在り方を検討するために福岡市登校支援対策会議を開催。
----------	---

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計		31,196
歳入	特定財源	9
	一般財源	31,187
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R1
	R3	
歳出合計	30,658	28,495
歳入	特定財源	0
	一般財源	18
	30,658	28,477

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 対象となる児童生徒に対して、Q-Uアンケートを実施する。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) Q-Uアンケートの結果から、学校生活に何らかの課題を抱え、支援が必要な児童生徒が分かる。 どのような支援を行うかを教職員で共通理解し、速やかに実践することで、児童生徒が抱える課題に早期対応する。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) いじめや不登校をはじめとする、子どもが抱える様々な課題やその兆候をいち早く把握し、早期対応を行う。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 学校生活に不安を持っている児童生徒を減少させ、全児童生徒が楽しく安全に通える魅力ある学校を作る。																																																													
	活動の指標	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">Q-U校内研実施率</td> <td>目標</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">100%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	Q-U校内研実施率	目標	100.0%	100.0%	100%	R6年度	実績	100.0%	100.0%	100%	達成率	100.0%	100.0%		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">不登校児童生徒の復帰率 ※R2は速報値</td> <td>目標</td> <td>65.0%</td> <td>65.0%</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">65.0%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>47.9%</td> <td>51.1%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>73.7%</td> <td>78.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	不登校児童生徒の復帰率 ※R2は速報値	目標	65.0%	65.0%	65.0%	R6年度	実績	47.9%	51.1%	65.0%	達成率	73.7%	78.6%		目標					実績					達成率			
	指標の内容	年度			実績		目標																																																										
			R1年度	R2年度	R3年度	最終年度																																																											
	Q-U校内研実施率	目標	100.0%	100.0%	100%	R6年度																																																											
実績		100.0%	100.0%	100%																																																													
達成率		100.0%	100.0%																																																														
指標の内容	年度	実績		目標																																																													
		R1年度	R2年度	R3年度	最終年度																																																												
不登校児童生徒の復帰率 ※R2は速報値	目標	65.0%	65.0%	65.0%	R6年度																																																												
	実績	47.9%	51.1%		65.0%																																																												
	達成率	73.7%	78.6%																																																														
	目標																																																																
	実績																																																																
	達成率																																																																
成果の指標(KPI)																																																																	

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	いじめゼロプロジェクト		
所管課	教育委員会指導部安全・安心推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		いじめ問題については、社会的にも早急に対応すべき問題となっている。いじめ問題に対して、事後に対処するという発想から、未然防止に力を入れる必要がある。
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		

基本計画				
施策コード	主	1-8-3		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実			学校の教育活動に対する満足度

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	児童生徒 保護者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	いじめ問題に対する児童会・生徒会等の活動を活性化させる。保護者・地域に啓発活動を行い、子どもたちを支援する意識を高め、その体制を構築する。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ根絶をめざした「いじめゼロ取組月間」を実施 ○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、これまでホール等の会場で200人以上の児童生徒が集まって行ってきた「いじめゼロサミット」を「いじめゼロミーティング」として2月にオンラインで開催 ・学校代表児童生徒による意見発表 ・福岡市いじめゼロスローガン策定 ・今年度のテーマを「ともに生きる」と設定し、コロナ禍において起こりうるいじめについて意見発表を行い、問題提起を行った。 ・全小・中・特別支援学校から1枚ずつ提出されたイラストをまとめ1枚のポスターとして作成し、全学校だけでなく、公民館等にも配布し、地域に対しても啓発を行った。

事業費(千円)			
令和2年度決算額(見込額)			
	歳出合計	226	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	226	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R1	R3
	歳出合計	2,819	3,000
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	2,819	3,000

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																		
	・1学期に、全小中学校において、児童会・生徒会等が主体となった、「いじめゼロ取組月間」を実施する。 ・児童生徒の代表による実行委員会を中心に企画、運営する「いじめゼロサミット」を開催し、各学校の「いじめゼロ取組」の内容を共有するとともに、より効果的な取組を検討する。	・各学校で工夫して取組を行った結果、取組のよさに気づき、継続して実施する。 ・各学校で行った取組について保護者・地域へ発信しようとする。	・いじめ問題に対する児童会・生徒会等の活動が活性化する。 ・保護者・地域に啓発活動を行い、子どもたちを支援する意識が高まる。	・全学校で、児童会・生徒会が活性化し児童生徒が主体となった「いじめ防止」の取組が行われている。 ・保護者・地域・企業等が子どもたちを支援する意識が高まり、いじめ防止の体制が構築される。																																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">児童生徒が主体となつたいじめ防止の取組が行われた学校数</td> <td>目標</td> <td>213</td> <td>213</td> <td rowspan="3">213</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>213</td> <td>213</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	児童生徒が主体となつたいじめ防止の取組が行われた学校数	目標	213	213	213	R6年度	実績	213	213	213	達成率	100.0%	100.0%			目標				R 年度		実績						達成率					<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した小6と中3の児童生徒の割合</td> <td>目標</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td rowspan="3">97.0%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>96.7%</td> <td>実施なし</td> <td>97.0%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>96.7%</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した小6と中3の児童生徒の割合	目標	100%	100%	97.0%	R6年度	実績	96.7%	実施なし	97.0%	達成率	96.7%	-			目標				R 年度		実績						達成率				
	指標の内容		実績		目標																																																																																	
		年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度																																																																																
児童生徒が主体となつたいじめ防止の取組が行われた学校数	目標	213	213	213	R6年度																																																																																	
	実績	213	213		213																																																																																	
	達成率	100.0%	100.0%																																																																																			
	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
指標の内容	実績		目標																																																																																			
	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度																																																																																	
全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した小6と中3の児童生徒の割合	目標	100%	100%	97.0%	R6年度																																																																																	
	実績	96.7%	実施なし		97.0%																																																																																	
	達成率	96.7%	-																																																																																			
	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	教育相談コーディネーターの配置	
所管課	教育委員会指導部教育相談課	背景
開始年度	平成21年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
平成20年度に福岡市の不登校児童生徒が1,000人を越え、不登校の子どもたちへの対応が求められたため。		

基本計画				
施策コード	主	1-8-3		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市立の小・中学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 不登校児童生徒への適切な指導・支援や校内適応指導教室の運営に従事するとともに、学校におけるコーディネーターの役割を担うなど、児童生徒一人一人の状況に応じ、学校復帰や社会的自立を支援する。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○小呂中、玄界中を除く中学校67校に教育相談コーディネーター(令和元年度以前の名称は不登校対応教員)を配置 ○校内適応指導教室の効果的な運営や、不登校児童生徒への対応力向上のための研修を実施 →教育相談コーディネーター連絡会の実施:年間10回実施 ※例年実施している自然体験・社会体験活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
-----------------	--

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
	歳出合計	1,056
歳入	特定財源	9
	一般財源	1,047
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R1 R3
	歳出合計	1,554 1,190
歳入	特定財源	0 18
	一般財源	1,554 1,172

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	小呂中、玄界中を除く中学校67校に教育相談コーディネーターを配置する。	不登校児童生徒や保護者との関係を構築し、適切な指導・支援を行う。校内適応指導教室の運営に従事する。学校内外において、小中連携、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図り、コーディネーターとしての役割を担う。	一人一人の現状に合わせた支援により、不登校児童生徒の状況が改善されたり、登校に繋がったりする。	不登校児童生徒の様々な状況が改善されることで、学校へ登校する機会が増え、社会的自立につながり、子どもの未来を広くむことになる。	
	活動の指標	実績	目標	実績	
	指標の内容	年度	R1年度	R2年度	R3年度
体験活動実施率 ※R2年度は中止	目標	100.0%	100.0%	100.0%	R6年度
	実績	97.0%	実施なし		100.0%
	達成率	97.0%	-		100.0%
	目標				R年度
	実績				
	達成率				

成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
	不登校児童生徒の復帰率 ※R2は速報値	目標	65.0%	65.0%	65.0%	R6年度
		実績	47.9%	51.1%		65.0%
		達成率	73.7%	78.6%		65.0%
目標				R年度		
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	スクールカウンセラー等活用事業	
所管課	教育委員会指導部教育相談課	背景
開始年度	平成8年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
平成8年度、児童生徒の多様な悩みや相談に対応するため、3名のスクールカウンセラーでスタートし、平成13年度からは国の補助金対象となった。心の教室相談員に関しては、平成10年度より実施。		

基本計画			
施策コード	主	1-8-3	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
事業群	いじめ・不登校等対策の充実		
施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	いじめ・不登校をはじめとした様々な諸問題を抱えた児童生徒とその保護者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	いじめ・不登校をはじめとした様々な課題を抱えた児童生徒とその保護者に対して、カウンセリングを通して心のケアを行い、児童生徒の学校復帰や社会的自立を図る。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○課題を抱える児童生徒及び保護者に対するカウンセリングを通して、心のケアを行った。
	○新型コロナウイルス感染症に関する、子どもや保護者等の心のケアを行った。
	○スクールカウンセラーを、小呂・玄界小中学校を除く小学校142校と中学校67校、高等学校4校、特別支援学校8校の計221校に配置した。
	○心の教室相談員を、小呂・玄界小中学校に配置した。

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計	188,458	
歳入	特定財源	54,475
	一般財源	133,983
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R1 R3
歳出合計	121,190	462,852
歳入	特定財源	40,251 152,941
	一般財源	80,939 309,911

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)				③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)				④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	スクールカウンセラーを、小呂・玄界小中学校を除く小学校142校と中学校67校、高等学校4校、特別支援学校8校の計221校に配置する。 心の教室相談員を、小呂・玄界小中学校に配置する。		様々な悩みに対して、子どもや保護者等にカウンセリングを行い、心のケアを行う。 学校組織の一員として、専門性を生かしながら、学級担任やスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、児童生徒が登校できるよう導く。				適切な支援につながり、会話が増えたり、子どもの表情がよくなる。 不登校児童生徒が少しずつではあるが、学校に登校する機会が増える。				不登校児童生徒の様々な不安が解消することで、学校へ登校する機会が増え、社会的自立につながり、子どもの未来をはぐくむことになる。			
	活動の指標	指標の内容		実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容		実績		目標	
		スクールカウンセラー等の配置校	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度		不登校児童生徒の復帰率 ※R2は速報値	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
			目標	225	225	225	R6年度			目標	65.0%	65.0%	65.0%	R6年度
実績			225	225	225	225	実績			47.9%	51.1%	65.0%	65.0%	
達成率	100.0%	100.0%				達成率	73.7%	78.6%						
スクールカウンセラー等の支援による改善・復帰率	目標	50.0%	50.0%	50.0%	R6年度	目標				R年度				
	実績	41.0%	27.0%	50.0%	50.0%	実績								
	達成率	82.0%	54.0%			達成率								

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	
所管課	教育委員会指導部教育相談課	背景
開始年度	平成20年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	
		事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成20年度に国の事業として開始、その後も引き続き、国の事業として実施されている。 子どもが抱える課題の背景は、複雑に絡み合っており、福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーなどが課題の内面に手を加え支援していくことが求められている。

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-3		学校の教育活動に対する満足度
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実			施策成果指標

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか いじめ・不登校をはじめとした様々な問題を抱えた児童生徒とその保護者
	対象をどのような状態にしたいのか 教育と福祉の両面から、課題を抱える児童生徒の家庭や学校における環境に働きかけ、不登校などの課題解決に向けた支援を行い、学校復帰や社会的自立を図る。
事業目的	

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○児童生徒が日常生活で生じる様々な支障や困難に対して、学校を基盤にした支援活動を行い課題解決を図った。 ○拠点校スクールソーシャルワーカーを各区に1名ずつ配置し、拠点校スクールソーシャルワーカー7名＋スクールソーシャルワーカー62名の合計69名を配置した。関係機関と連携しながら児童生徒や保護者の課題改善に向けた支援を行った。

事業費(千円)			
令和2年度決算額(見込額)			
歳出合計	257,430		
歳入	特定財源	100,191	
	一般財源	157,239	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R1	R3
歳出合計	261,868	274,563	
歳入	特定財源	98,241	99,355
	一般財源	163,627	175,208

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)				③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)				④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	拠点校スクールソーシャルワーカー(SSW)を各区に1名ずつ配置し、拠点校SSW7名＋SSW62名の合計69名を配置し、関係機関と連携しながら児童生徒や保護者の課題改善に向けた支援を行う。		児童生徒が日常生活で生じる様々な支障や困難に対して、学校を基盤にした支援活動を行い課題解決を図る。 学校との関係が切れている家庭への介入を行い、関係機関と連携しながら、家庭の支援を行い、子どもの生活環境を改善させることができる。				生活環境の改善等により、不登校等の状況が改善され、少しずつ登校できるようになる。				不登校児童生徒や保護者の様々な環境等が改善されることで、学校へ登校する機会が増え、社会的自立につながり、子どもの未来をはぐくむことになる。			
	指標の内容		実績		目標		実績		目標		実績		目標	
	活動の指標	スクールソーシャルワーカーの配置人数	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	不登校児童生徒の復帰率 ※R2は速報値	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	
目標			69	69	71	R6年度	目標		65.0%	65.0%	65.0%	R6年度		
実績			69	69			77		実績	47.9%			51.1%	65.0%
達成率		100.0%	100.0%			達成率	73.7%	78.6%						
スクールソーシャルワーカーによる介入率		目標	30.0%	30.0%	30.0%	R6年度	目標			R年度				
		実績	25.2%	31.4%			実績							
	達成率	83.9%	104.7%	達成率										

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	放課後等の遊び場づくり事業(わいわい広場)	
所管課	教育委員会総務部放課後こども育成課	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ○子どもの「遊び」には、人とのつきあい方がわかる、体力向上、思いやり深く我慢強くなる、自分に自信が付き、好きになる、情緒不安定の解消などの効用がある。 ○しかしながら、現代の子どもを取り巻く環境は3間(時間・空間・仲間)がない状況であり、地域における自由に遊べる場所が少なくなり、外遊びや集団遊びをする子どもが少なくなっている。 ○このような遊びの衰退が体力低下、キレやすい子や無気力な子などの増加につながっているとも言われていることから、自由に安心して大勢の仲間たちで遊ぶことができる場が求められている。
開始年度	平成15年度	
根拠法令	-	
行政計画	第5次福岡市子ども総合計画	

基本計画		
施策コード	主 再	1-8-4
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
事業群	子ども・若者の健全育成の取組み	

施策成果指標
 地域の遊び場や体験学習の場への評価(地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)
 (R4年度目標値:65%)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 小学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ○子どもたちが自由に遊べる場を増やす。また、外遊びする時間や集団遊びする子どもを増やす。 ○子どもたちの主体性、社会性、創造性、コミュニケーション能力が向上する。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○民間事業者、校区運営委員会等に運営業務を委託し、助言等を行う運営協議会の設置や地域・保護者の協力を得て見守りを実施 (1)開催日:平日の週3日間程度 (2)場所:校庭(一部体育館、校舎内特別教室等) (3)実施校数:138校(令和2年度末現在:派遣型含む) (4)参加児童数(延べ):239,086人(令和2年度末現在) ○事業の活性化を図るため、人材育成事業や普及・啓発活動を実施 (1)関係者(現場責任者・補助員・プレイワーカー)研修の実施 (2)学生プレイワーカー育成事業(令和2年度末現在) 登録学生数 58人、実習・支援日数(延べ)96日間 (3)プレイワーク研修講座 講座 3日間5回、修了者数 18人、現場実習 1日間、延べ 1人参加 (4)わいわい広場の意義・遊びの効用の普及・啓発活動
----------	---

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計		391,662
歳入 特定財源		113,738
入 一般財源		277,924
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R1	R3
歳出合計	400,682	461,067
歳入 特定財源	110,754	140,176
入 一般財源	289,928	320,891

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)				
	・現場責任者、補助員、プレイワーカー(以下「PW」という。)に研修を実施する。 ・プレイワーク研修講座及び学生PW育成事業を実施し、事業に関わる人材を育成する。 ・未実施校の学校・地域・保護者等に、開設の必要性を説明する。 ・実施校の学校・地域・保護者等に、わいわい広場の意義や遊びの効用について普及啓発を行う。 ・関係団体説明、市HP、お試しわいわい広場などあらゆる機会を捉えて、わいわい広場の意義や遊びの効用について普及・啓発を行う。		・研修やPW育成講座等により、現場責任者・市民・学生等が、遊びの必要性、子どもへの適切な関わり方、自発的な遊びについて理解する。 ・未実施校の学校・地域等への説明により、わいわい広場開設に向けた協議が行われる。 ・実施校の保護者等への普及・啓発などにより、登録者数や参加者数が増えるとともに、見守りサポーターが増える。		・学校・地域等が開設を承諾し、運営事業者の公募・選定を経て、わいわい広場が新規開設される。 ・子どもたちが外で遊ぶようになり、遊ぶ時間や遊ぶ人数が増える。 ・異学年交流や、主体的な遊びが増える。 ・わいわい広場や運営協議会などを介して、学校・地域・保護者等のネットワークが形成される。		・地域での遊び場に関する市民の満足度(評価)が高まる。 ・子どもたちの主体性、社会性、創造性が向上する。 ・子どもたちのコミュニケーション能力が向上する。 ・子どもたちの体力や運動能力が向上する。 ・地域で子どもを見守り育む機運が高まる。				
	活動の指標	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標
わいわい広場の登録者数	年度目標	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	わいわい広場の実施校数(派遣型含む)	年度目標	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
	実績	-	-	-	R 年度		137	144	-	R 年度	
	達成率	18,751	15,887	増加	-		136	138	144	144	
	目標	-	-	-	R 年度		達成率	99.3%	95.8%	-	R 年度
わいわい広場の参加者数	年度目標	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度	成果の指標(KPI)	年度目標	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
	実績	-	-	-	R 年度		-	-	-	-	R 年度
	達成率	272,700	239,086	増加	-		-	-	-	-	-
	目標	-	-	-	R 年度		-	-	-	-	R 年度

事務事業マネジメントシート（令和2年度実施分）

事業名	学校規模適正化事業	
所管課	教育委員会教育環境部通学区域課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 都心部や周辺部の児童生徒数減少、鉄道沿線や大規模住宅開発地域の児童生徒数増加により、地域によって学校の規模に偏りが生じており、学校規模に起因する様々な教育課題が生じている。そのため、平成21年3月に策定した「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針」に基づき、事業を進めている。
開始年度	平成21年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-5		学校の教育活動に対する満足度
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	教育・健全育成環境の整備			施策成果指標

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 学校規模適正化対象校区の児童生徒、保護者、地域住民
	対象をどのような状態にしたいのか 「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針」に基づき、学校の統合・分離、通学区域の変更など、校区の実情に応じた手法により、学校規模の適正化を図り、学校規模に起因する教育課題を解決し、教育効果の向上を図る。

実施内容(手段)	令和2年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○アイランドシティ地区における児童数増へ対応するため、照葉北小学校の分離新設の基本計画及び基本設計を完了した。
	○西都小学校における児童数増へ対応するため、新設小学校の実施設計を完了し、通学区域案を決定した。
	○元岡中学校における生徒数増へ対応するため、元岡中学校の分離新設に向け、新設校の候補地を選定し、造成基本設計に着手した。
	○西新小学校における過大規模対策のため、第2運動場用地を取得し、校舎増築に向けた基本計画を実施した。
	○平尾小学校における過大規模対策のため、外部便所の新設工事を実施した。
	○高取小学校における過大規模対策のため、校舎増築工事等を実施した。
○舞鶴小中学校の統廃合時の計画に基づき、第2運動場用地を取得した。	

事業費(千円)		
令和2年度決算額(見込額)		
歳出合計	7,088,261	
歳入	特定財源	943,947
	一般財源	6,144,314
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R1	R3
歳出合計	625,705	1,379,387
歳入	特定財源	228,969
	一般財源	396,736 ▲ 9,310

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 学校規模に起因する教育課題が生じている小中学校について、地域・学校等関係者と協議を行いながら、対応策を検討・実行していく。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 学校規模の適正化が図られる。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 学校規模に起因する教育課題が解決され、教育効果の向上が図られる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 学校の教育活動に対する満足度が向上する。		
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)		
	活動の指標	年度	R1年度	R2年度	R3年度	最終年度
		目標	8件	10件	10件	R 年度
		実績	8件	10件		-
達成率		100.0%	100.0%			
目標				R 年度		
実績						
達成率						